

stage

演劇空間スペースベン

「いぼれおちるもの」

〈文・創造集団パノラマ屋 代表 安達良春〉

私事ですが、現在引越しの真っ最中。トラックを借りて休日2回物を運び、後は平日の夜を使えば何とかなるだろうと考えていたのだが、これがなかなか手強い。バタバタと梱包もままならないまま休日を迎え、とにかく物を運んでしまおうとしたのだが、圧倒的な物量に途方にくれてしまった。必要な物、要らない物。必要なものかどうなのかよく分からない物。必要無いけど捨てられない物。そんな物を一つずつ運びながら、トラックに送り迎えされて芝居を1本観てきた。

開演ギリギリに会場に駆け込むと、ステージ中央に置かれた背の高いオブジェが目付いた。オブジェの上には白いすり鉢状の物がつけられている。開演すると、そのすり鉢状の物から砂がこぼれ出す。ちょうど受け皿の無い砂時計の様だ。音もなく砂がこぼれ落ちる中、静かに「劇団INTEL VISTA」の朗読劇「リュックシヤック」が始まった。母親が子供に物語を読んで聞かせている。主人公は小さな女の子。リュックシヤックを背負い、毎日いろんな物を詰め込んで家に帰ってくる。そのリュックシヤックには穴が開いてい

て、ぼろぼろとこぼれ落ちてしまふ。その穴をお母さんが直そうとするとところから物語は始まる。不器用なお母さんの修理は結局また穴が開いてしまい、女の子はお母さんに内緒でカバン屋さんに直してもらおうと一人で出掛けて行く。途中名前を無くした青年や、不思議な事を話す青年と出会うが、カバン屋さんには出会えない。そして道の最後には通る人から何でもとってしまう男がいた。女の子は迷いながらもお母さんから貰ったリュックシヤックを男にあげてしまふ。そこへ女の子の帰りが遅いのを心配したお母さんがやってきて、女の子がリュックシヤックをあげてしまった事を知り、寂しそうに立ち去ってしまう。その姿を覗いていた女の子は、途中で出会った名前を無くした青年と一緒にリュックシヤックを取り戻そうとするのだが男は返してくれない。男が集めた山のようなガラクタをかき分けているうちに、女の子の指からは血が出てきてしまふ。それでも自分のリュックシヤックを探すのをやめない女の子。最後には自分のリュックシヤックに飲み込まれてしまふ。リュックシヤックの中には女の子が今まで集めた沢山の思い

出が詰まっていた。その沢山の思い出に肩車をしてもらい、女の子はリュックシヤックから抜けだし、家へと帰っていく。リュックシヤックからこぼれ落ちた物が点々と続いていく。追を通して…。

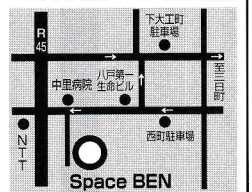
朗読劇を観たのはこれで2度目だが、なかなか面白いものだなと思った。絵本を読んだ後の様になんとか優しい気持ちになった。物語と台詞だけで観客を引っ張っているのは、かなり難しいと思う。自分ならきつとあれこれ仕掛けを考え「飛び出す絵本」を目指すだろう。敢えて仕掛けを排除して造り上げる自信は私にはない。

「劇団INTEL VISTA」はこれまで何度か八戸で公演しており、前回も朗読劇という形をとっていた。今回はいったいどんな形を持つてくるのか楽しみだ。是非また公演に来てほしい。

3月のFriday Amusement Negative Shop

- 3月7日 (474回)
安達良春プラスワンシアター
タイトル未定
- 3月14日 (475回)
シバミぶれぜんつ
「ライブでゴー・ゴー・ベンスタからおけBOX化計画！」
- 3月21日 (476回)
- 3月28日 (477回)
未定

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売



駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町駐車場有り)

問 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールアドレスでご確認下さい。

○FANS番外編

■3月23日
藤間文翔発表会

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんにより
まずジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せない
ているあなた、一度「物語」を書いてみませんか？ FANSでは、そんな方の
思いを大切に舞台にのせてみたいと思っています。

☎ スペースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>
Eメールアドレス fans@spaceben.com